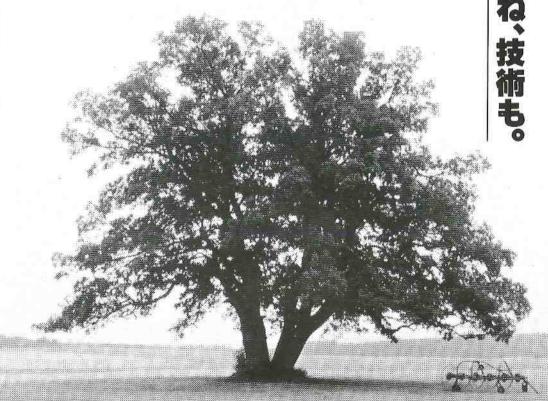
HITACHI

シンプルがいいね、技術も。

近年、"技術"はますます高度で複雑になってきました。専門知識を持った人や経験を積んだ人でなくては扱えないような機械もふえています。でも本来機械は、誰もが気軽に使えるものであるべきでしょう。これからの技術には単純明快なわかりやすさが必要なのです。いま日立はインターフェイスという言葉のもとに、人間と技術とのよりよい関係、誰もがかんたんに使いこなせる技術の実現をめざして研究・開発をすすめています。

技術との自由な対話

Interface

株式會社 日立製作所　宣伝部 〒101 東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地　TEL東京(03)258-1111(大代)

第11回日本リーグ後期終了

男女とも大混戦 得失点差で優勝が決定

第11回日本リーグは、11月16日に全日程を終了した。今回のリーグは，男女とも勝点，対戦間の得失点も同じ、結局総得失点差で優勝が決まるという大激戦を展開，男子が本田技研鈴鹿の初優勝、女子が立石電機山鹿の３年ぶり６度目の優勝でその幕を閉じた。

〔男子〕

順位	チーム名	本田	湧永	大崎	日新	三陽	三景	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失点差
①	本田技研鈴鹿	＼	○ ●	● ○	● ○	○ ○	○ ○	7	0	3	14	259	195	64
②	湧永製薬	● ○	＼	○ ●	○ ○	● ○	○ ○	7	0	3	14	231	202	29
③	大崎電気	○ ●	● ○	＼	● ○	● ○	○ △	5	1	4	11	242	255	－13
④	日新製鋼	○ ●	● ●	○ ●	＼	○ ●	○ ○	5	0	5	10	239	227	12
⑤	三陽商会	● ●	○ ●	○ ●	● ○	＼	○ ○	5	0	5	10	212	236	－24
⑥	三景	● ●	● ●	● △	● ●	● ●	＼	0	1	9	1	202	270	－68

〔女子〕

順位	チーム名	立石	大崎	ジャ	日立	日ビ	大和	勝	分	負	勝点	得点	失点	得失点差
①	立石電機山鹿	＼	● ○	○ △	○ ●	○ ○	○ ○	7	1	2	15	203	166	37
②	大崎電気	○ ●	＼	△ ○	● ○	○ ○	○ ○	7	1	2	15	226	204	22
③	ジャスコ	● △	△ ●	＼	○ ●	○ ○	○ ●	4	2	4	10	203	205	－２
④	日立栃木	● ○	○ ●	● ○	＼	△ ●	○ △	4	2	4	10	187	196	－９
⑤	日本ビクター	● ●	● ●	● ●	△ ○	＼	● ○	2	1	7	5	210	233	－23
⑥	大和銀行	● ●	● ●	● ○	● △	○ ●	＼	2	1	7	5	194	219	－25

〈男子〉

本田技研鈴鹿念願の初優勝を飾る

前期から各チームが激しい星のつぶし合いを展開した男子は、後期も依然混戦模様を見せ、連覇を目指す湧永製薬と初優勝を狙う本田技研鈴鹿が、共に最終戦を終えて7勝3敗で並んでしまった。この両チーム、対戦間の得失点も全く同点で、結局総得失点差で争うこととなり、その結果、本田技研鈴鹿が上回って念願の初優勝を飾った。

今回のリーグは、5チームが激しい星のつぶし合いで、1、2位が同勝点(14)、また4、5位も勝点10という高い勝点をあげて争うという史上まれに見る大激戦であった。

第1週第1日(10月25日)

▼石川県体育館

湧永製薬27 〔13−7／14−11〕 **18三景**

(4勝2敗)　(6敗)

○…試合開始、三景がカットインで先行したが、湧永もすぐに追いつき、ポスト、速攻などで徐々に点差をつけ、前半13−7と湧永リードで終了。

後半に入ると、三景は近藤、郡司の速攻で頑張るものの、湧永のGK井藤の固い守りに阻まれた。

湧永・山本も後半に出場2点を入れ、連続試合記録を99試合と伸ばした。

得	〔湧永〕		〔三景〕	得
0	大城	GK	中村	0
0	井藤		北川	0
1	生駒		田畑	3
6	玉村	FP	近藤	4
1	藤本		高橋	0
1	志賀		峰尾	0
0	内田		福永	0
2	山本	(審・島崎	田村	0
4	奥田	井上)	鈴木	3
3	椙原		山田	0
8	酒巻		大谷	0
1	河原		郡司	8
27	(2)	PT	(2)	18

▼福井県営体育館

大崎電気26 〔16−7／10−11〕 **18三陽商会**

(3勝3敗)　(3勝3敗)

○…国体優勝で勢いにのる大崎はスタートから得点を重ね、前半で大きくリード。

結局10得点をあげた首藤、好キーピングを見せた矢内の活躍などで、前期大躍進の三陽も歯が立たなかった。

得	〔大崎〕		〔三陽〕	得
0	岡部	GK	内野	0
0	矢内		宇田川	0
1	松岡		関	2
0	武田	FP	清家	4
10	首藤		田口	1
0	中田		砂川	2
1	越追		山口	7
0	菅田	(審・徳前	石原	0
4	星野	田嶋)	実方	2
0	大野		安藤	0
3	大和田		河村	0
7	宮下		吉原	0
26	(4)	PT	(0)	18

第1週第2日(10月26日)

▼名古屋市体育館

湧永製薬21 〔12−6／9−9〕 **15三陽商会**

(5勝2敗)　(3勝4敗)

○…立ち上がりやや動きに精彩を欠いた湧永は、8分まで無得点の拙攻。しかし、徐々にペースを取りもどすと、左腕エース玉村を中心とした力強い攻撃でリズムに乗り着々と加点。一方の三陽は、全員がよく動いて反撃するが、湧永の厚いディフェンスがなかなか崩せず、前半でダブルスコアと開かれてしまった。

しかし後半、GK宇田川の攻守などから速い攻撃で一時は3点差まで詰め寄ったがそこまでだった。

なお、湧永・山本は後半に1得点をあげて自己の持つ連続試合得点記録を一〇〇試合の大台にのせた。

得	〔湧永〕		〔三陽〕	得
0	大城	GK	内野	0
0	井藤		宇田川	0
6	生駒		関	3
7	玉村	FP	清家	3
0	藤本		田口	0
0	志賀		砂川	0
0	内田		山口	5
1	山本	(審・岩永	石原	0
3	奥田	岩本)	実方	3
1	椙原		安藤	0
2	酒巻		河村	1
1	河原		吉原	0
21	(2)	PT	(0)	15

▼大分県立総合体育館

本田技研鈴鹿19 〔10−11／9−6〕 **17日新製鋼**

(4勝2敗)　(4勝2敗)

○…前半立ち上がり本田は2点をリードするが、日新は西山が速攻とロングシュートで同点とし、その後も着実に得点を重ねたが、15分頃からディフェンスの荒さが目立ち2回の退場者がでるピンチ。本田はここをうまくついて同点とするが、前半は11−10と日新リードで終了。

後半、13−13から得点が動かない場面もあったが、日新の3回に及ぶパッシブプレーで本田は速攻、

得	〔本田〕		〔日新〕	得
0	大畑	GK	西川	0
0	橋本		森田	0
0	三本松		森	0
0	田野	FP	武田	4
3	立木		西山	6
1	尾上		甲斐	1
3	内藤		藤井	1
3	粟屋	(審・森山	日野	1
2	吉山	田原)	堀田	2
3	田口		一瀬	0
0	坂本		高木	2
4	山本		野中	0
19	(2)	PT	(3)	17

サイド、ポストなどで抜け出し、守ってはベテランGK大畑が好守を見せて会心の勝利。

第2週第1日（11月1日）

▼四日市市体育館

湧永製薬 27（13―9、14―10）19 本田技研鈴鹿

（6勝2敗）　　（4勝3敗）

○…前半開始早々、本田は立木のミドルシュートで先行するが、湧永もPTですぐ追いつき、速い試合展開となった。10分過ぎまではやや本田ペースでこのままリズムに乗るかと思われたが、湧永が奮起して逆に4点リードを奪って前半を終了。

後半も湧永が玉村、楢原の活躍でリードを守り、本田は13分過ぎに速攻などで2点差まで詰め寄る

得	〔本田〕		〔湧永〕	得
0	大畑	GK	大城	0
0	橋本	GK	井藤	0
0	三本松	FP	河原	2
0	田野	FP	生駒	1
4	立木	FP	玉村	8
1	尾上	FP	藤本	2
4	内藤	FP	志賀	1
3	粟屋	FP	中川	1
3	吉山	FP	山本	1
1	田口	FP	奥田	3
2	山本	FP	楢原	6
1	平子	FP	酒巻	2
19	(3)	PT	(4)	27

（審・小山、飼沼）

が善戦もそこまで、その後は湧永の一方的なペースに終始した。

この試合は、両チームともにラフプレーが目立ち、ジャッジに対する態度にも問題がみられた。一考されたい。

第2週第2日（11月2日）

▼福島体育館

大崎電気 33（16―20、17―10）30 日新製鋼

（4勝3敗）　　（4勝3敗）

○…前半大崎ディフェンスの動きがよく、日新はロング、ミドルシュートを打てず、ゴールエリア附近からの攻撃で、なかなか得点に結びつかなかった。一方大崎はロング、ミドルを中心に多彩な攻撃で差を広げた。

後半になると、日新はよく走るようになり、守っては速攻につなげるというパターンから反撃を開始し、ポストとフローターの連係プレーもよくなってジリジリと差を縮めて、15分には1点差まで詰め寄った。しかし、大崎もディフェンスを立て直して、前半のリードを守り逃げ切った。

得	〔日新〕		〔大崎〕	得
0	西川	GK	渡辺	0
0	森田	GK	矢内	0
4	森	FP	松岡	4
3	武田	FP	首藤	5
4	西山	FP	中田	0
0	甲斐	FP	山本	0
4	藤井	FP	越迫	1
8	日野	FP	菅田	0
6	堀江	FP	星野	9
0	一瀬	FP	大野	0
1	高木	FP	大和田	8
0	野中	FP	宮下	6
30	(4)	PT	(3)	33

（審・菅野、半田）

第2週第3日（11月3日）

▼岩手県営体育館

本田技研鈴鹿 29（16―5、13―7）12 大崎電気

（5勝3敗）　　（4勝4敗）

○…前半、大崎電気はシュートミスが多く、リズムを崩して攻めあぐんだが、本田鈴鹿は速攻、ポスト、サイドと確実にシュートを決めて優位に立った。

後半に入っても流れは変らず、本田鈴鹿は速攻を主体とした攻撃で着々と得点を重ね、一方的に大崎電気を下した。

得	〔大崎〕		〔本田〕	得
0	渡辺	GK	大畑	0
0	矢内	GK	橋本	0
2	松岡	FP	三本松	0
0	武田	FP	田野	3
2	首藤	FP	立木	3
1	中田	FP	尾上	3
0	山本	FP	内藤	2
1	越迫	FP	粟屋	4
0	菅田	FP	吉山	8
2	星野	FP	田口	1
1	大和田	FP	山本	3
3	宮下	FP	平子	2
12	(1)	PT	(2)	29

（審・小友、谷藤）

▼京都府立体育館

三陽商会 18（9―9、9―7）16 三景

（4勝4敗）　　（7敗）

○…前半立ち上がり、両チームのGKの頑張りで一進退の攻防が続いたが、先制したのは三景、その後主導権は三陽に移り、前半は9―7で終了。

後半、三陽は実方を投入するとこれが当たって実方のロングで優位に立った。しかし、三景も1点差で食いつき終了直前に同点のPTを得るが、これがバーに当たり万事休し、逆に三陽はもう1点を加えて三景を辛くも突き放した。

	〔三景〕	得	〔三陽〕	得
GK	中村	0	内野	0
GK	長橋	0	宇田川	0
FP	田畑	2	関	1
FP	近藤	5	清家	4
FP	高橋	0	田口	3
FP	峰尾	0	砂川	2
FP	福永	0	山口	1
FP	田村	1	石原	0
FP	鈴木	4	実方	6
FP	日越	0	安藤	0
FP	山田	1	河村	1
FP	郡司	3	吉原	0
PT	(2)	16	(1)	18

（審・北山 大原）

第3週第1日（11月8日）

▼富士吉田市営鐘山スポーツセンター

日新製鋼27〔14 13｜8 10〕**18 三景**
（5勝3敗）　（8敗）

○…西山、武田で先制した日新が常にリードしながら試合を進めるが、三景GK中村の好守にあってなかなか決定的なリードが奪えない。三景の反撃も大事なところでミスがあり、前半は13―10で日新がリード。後半開始早々、三景にミスが続いて日新は速攻などで3点を連取、主導権を握るとスピードのある攻撃で武田、森などが次々とシュートを決めて三景を突き放した。

	〔三景〕	得	〔日新〕	得
GK	中村	0	西川	0
GK	北川	0	森田	0
FP	田畑	2	森	3
FP	近藤	3	武田	5
FP	高橋	0	西山	6
FP	峰尾	0	甲斐	3
FP	福永	0	藤井	2
FP	田村	2	日野	0
FP	鈴木	6	堀田	4
FP	山田	1	一瀬	0
FP	大谷	0	高木	4
FP	郡司	4	野中	0
PT	(4)	18	(1)	27

（審・斉藤 市瀬）

▼下関市体育館

大崎電気21〔13 8｜8 11〕**19 湧永製薬**
（5勝4敗）　（6勝3敗）

○…昨年度日本リーグの1、2位同士、さらに全日本総合、国体の決勝対決と、大同を除いたこの両チームの対決は現在の日本ハンドボール界のトップゲームである。湧永はこの試合に勝ってV2へのマジックを出したい、大崎は負ければ入れ替え戦のおそれがでてくる、ともに負けられない両チームの意地がぶつかり合って白熱した。

立ち上がりから両チームのディフェンスは激しく守り合い、特に地元出身で熱い声援を背中にした湧永GK井藤の好守は素晴しく、それを生かした湧永が前半18分からの速攻3連取でリードした。

後半に入るや、大崎は松岡のしぶといプレーで追いあげ、終盤には大崎のロング砲・首藤と宮下の活躍で湧永に逆転勝ちした。

なお、湧永の山本は、後半3つのフィールドゴールを決め、連続試合得点を102試合と伸ばした。

	〔湧永〕	得	〔大崎〕	得
GK	大城	0	岡部	0
GK	井藤	0	矢内	0
FP	生駒	3	松岡	5
FP	玉村	4	武田	0
FP	藤本	0	首藤	6
FP	志賀	3	中田	0
FP	中川	2	山本	0
FP	山本	3	越迫	1
FP	奥田	2	菅田	0
FP	檜原	1	星野	3
FP	酒巻	1	大和田	4
FP	河原	0	宮下	2
PT	(0)	19	(0)	21

（審・山根 赤地）

第3週第2日（11月9日）

▼栃木市総合体育館

三陽商会29〔18 11｜13 12〕**25 日新製鋼**
（5勝4敗）　（5勝4敗）

○…前半日新・西山、三陽・実方の両エースの打ち合いで始まり、日新1点リードで前半を終る。

後半に入り、日新は大事なところでノーマークシュートをはずし試合の流れが三陽に傾いた。8分に三陽は実方のPTで逆転、続いて砂川のサイドが決まって主導権を握り、残り4分、日新もオールコートマンツーで挽回を試みたがそのままノータイムとなる。

	〔日新〕	得	〔三陽〕	得
GK	西川	0	内野	0
GK	森田	0	宇田川	0
FP	森	1	関	4
FP	武田	5	清家	5
FP	西山	6	田口	2
FP	甲斐	4	砂川	3
FP	藤井	1	山口	3
FP	日野	0	石原	0
FP	堀田	2	実方	12
FP	一瀬	5	安藤	0
FP	高木	0	河村	0
FP	野中	1	吉原	0
PT	(2)	25	(5)	29

（審・山下 浜野）

▼水海道市民体育館

本田技研鈴鹿32〔17 15｜9 14〕**23 三景**
（6勝3敗）　（9敗）

○…前半、両チームともに動きが悪くミスの目立つゲームとなり、スコアは両チーム互いに譲らず一進一退のゲーム展開となった。

後半の5分過ぎより本田のスピーディな攻撃が出始め、8分以降に粟屋の3連続得点を含む5連取をしてゲームを決定づけた。三景は、前半善戦しながら後半キャッチミスなどで相手速攻を許したのが悔やまれる。

	〔三景〕	得	〔本田〕	得
GK	中村	0	大畑	0
GK	北川	0	橋本	0
FP	田畑	6	三本松	1
FP	近藤	2	田野	1
FP	高橋	0	立木	3
FP	峰尾	0	尾上	2
FP	福永	0	内藤	5
FP	田村	0	粟屋	8
FP	鈴木	6	吉山	2
FP	日越	0	田口	0
FP	山田	1	山本	10
FP	郡司	8	平子	0
PT	(1)	23	(3)	32

（審・住尾 岡本）

第4週第1日（11月15日）

▼岐阜県民体育館

大崎電気28〔17 11｜15 13〕**28 三景**
（5勝1分4敗）　（1分9敗）

○…前半、三景は好守・中村からの速攻、近藤のポスト、田畑のロングなどで得点。大崎は、相手ミスからの速攻、PT、高さのあるロングで食いさがっていく展開

となった。

後半に入り、三景は多彩な攻撃で一時は7点をリード、試合を決定づけたと思われた。しかし、大崎は20分頃から猛反撃、たつづけに得点を奪い、28分には同点、29分には逆転した。だが三景も粘りを発揮、田村の同点シュートで引き分けに持ちこんだ。

〔三景〕		得
GK	中村	0
GK	北川	0
FP	田畑	5
FP	近藤	4
FP	高橋	0
FP	福永	0
FP	田村	6
FP	鈴木	4
FP	日越	0
FP	山田	4
FP	大谷	0
FP	郡司	5
PT	(0)	28

〔大崎〕		得
GK	岡部	0
GK	矢内	0
FP	松岡	2
FP	首藤	11
FP	中田	0
FP	山本	0
FP	越迫	0
FP	菅田	1
FP	星野	6
FP	大野	0
FP	大和田	6
FP	宮下	2
PT	(3)	28

〔審・岩本 岩永〕

▼広島県立体育館

湧永製薬29〔13—9 16—5〕**14日新製鋼**
（7勝3敗）（5勝5敗）

○…この一戦に勝って優勝の望みをつなぎたい湧永と、負ければ入れ替え戦出場のピンチに立たされる日新の対戦。しかも、両者の地元・広島での激突とあって好ゲームが期待されたが、試合が始まってみると、湧永が生駒、玉村のロング攻撃に楢原のポストプレーをからめて着実にポイントを奪い、またGK井藤の好守を軸とする手堅い守りも光って快調に飛ばした。「今シーズン最高の出来」（湧永・山本監督）という湧永に対し、日新は攻守ともリズムがつかめず後半は"守って速攻"のパターン持ち込んだ湧永に予想外の大差をつけられて完敗。湧永の玉村はロング、PTをビシビシ決めて12得点をマークする大活躍だった。

〔日新〕		得
GK	西川	0
GK	森田	0
FP	森	3
FP	武田	3
FP	西山	5
FP	甲斐	0
FP	藤井	0
FP	日野	0
FP	堀田	1
FP	一瀬	1
FP	高木	1
FP	野中	0
PT	(1)	14

〔湧永〕		得
GK	大城	0
GK	井藤	0
FP	生駒	4
FP	玉村	12
FP	志賀	3
FP	中川	0
FP	内田	1
FP	山本	1
FP	奥田	1
FP	楢原	5
FP	酒巻	0
FP	河原	2
PT	(5)	29

〔審・中本 渡辺〕

第4週第2日（11月16日）

▼熊本市総合体育館

本田技研鈴鹿28〔10—10 18—4〕**14三陽商会**
（7勝3敗）（5勝5敗）

○…この試合に勝てばリーグ優勝が決る本田にとっては大事なゲームとなったが、立ち上がりからまったくプレッシャーを感じさせない積極的なディフェンスで三陽を圧倒、立木のミドル、粟屋の速攻などで18—4と大きくリードして勝敗を決定づけた。

後半は三陽が実方のロングなどで追い上げるものの本田は余裕のあるプレーで応酬、スカイプレーをたて続けに決めるなどして創部以来、念願のリーグ初優勝を果たした。

〔三陽〕		得
GK	内野	0
GK	宇田川	0
FP	関	0
FP	清家	4
FP	田口	2
FP	砂川	1
FP	山口	3
FP	石原	0
FP	実方	4
FP	安藤	0
FP	河村	0
FP	吉原	0
PT	(3)	14

〔本田〕		得
GK	大畑	0
GK	橋本	0
FP	三本松	1
FP	田野	0
FP	立木	7
FP	尾上	1
FP	内藤	4
FP	粟屋	3
FP	吉山	5
FP	田口	2
FP	山本	5
FP	平子	0
PT	(5)	28

〔審・大宮 阪本〕

▼個人賞

〔ベストセブン〕
GK 大畑孝広（本田技研鈴鹿）
FP 西山 清（日新製鋼）
実方 智（三陽商会）
立木浩二（本田技研鈴鹿）
山本伸二（湧永製薬）
郡司 勉（三景）
首藤信一（大崎電気）

〔最多フィールドゴール賞〕
首藤信一（大崎電気）55点

〔最高シュート率賞〕
星野 薫（大崎電気）0・638

〔PT得点賞〕
吉山慎一（本田鈴鹿）22点

〔優勝監督賞〕
喜井美雄（本田技研鈴鹿）

〈女子〉

立石電機山鹿 逆転で栄冠を奪回する

女子も最後の最後まで優勝争いがもつれた。

最終戦、7勝1分1敗と1歩リードの大崎電気と6勝1分2敗と逆転を狙う立石電機山鹿が直接対決、地元・熊本での逆転優勝に執念を燃やす立石が、前半の劣勢を後半ひっくり返して逆転勝ち。これで両者の勝点、対戦間の得失点が男子同様全く同じになってしまった。結局、女子も男子同様総得失点差の争いとなり、立石が僅かに上回って見事逆転で優勝、3年ぶり6回目の栄冠に輝いた。

大崎は連覇を目前としながらあと1点が取れず涙をのんだ。

第1週第1日（10月25日）

▼石川県体育館

大和銀行25（12—9／13—7）**16ジャスコ**

（2勝4敗）（3勝1分2敗）

○…前半から大和銀行が終始リードをする展開となった。ジャスコも後半5分過ぎには、12—12のタイスコアまで持ち込んだが、その後はやや強引な攻めを大和GK・高浜に合わせられ逆速攻を浴びるなどしてワンサイドゲームとなってしまった。

国体優勝のジャスコは、最後まで調子がでず、持ち前のディフェンスの詰めも甘く後期初戦を落とした。

〔ジャ〕	得		〔大和〕	得
小深田	0	GK	高浜	0
山口	0	GK	増見	0
寺沢	2	FP	丸田	5
石田	1	FP	上西	3
近藤	6	FP	赤瀬	5
鷲野	2	FP	佐々木	1
服部	3	FP	植田	2
高岡	1	FP	天谷	2
寺西	0	FP	袰川	2
池田美	1	FP	上村	4
常石	0	FP	藤本	0
池田久	0	FP	小池	1
(3)	16	PT	(2)	25

（審・伊藤、加藤）

▼福井県営体育館

大崎電気21（8—11／13—7）**18日立栃木**

（4勝1分1敗）（2勝1分3敗）

○…後期開幕、両チームともスタートから堅さが見られたが、先に堅さのとれた日立がGKの好守と積極的なオフェンスでリードを奪った。

しかし後半に入ると、李相玉を中心とする多彩なパスワークとポストをからめた攻撃の大崎が一気に同点とし、さらに46試合連続得点を重ねる石井の7得点をあげる活躍などで日立を振り切り1敗を守った。

〔日立〕	得		〔大崎〕	得
葛岡	0	GK	大西	0
岡本	0	GK	梅野	0
手打	1	FP	時実	2
前田	6	FP	松尾	0
清水	2	FP	塩谷	0
井沢	2	FP	石井	7
吉田	2	FP	沖山	1
山岸	4	FP	徳渕	2
菅原	0	FP	金玉花	5
石毛	0	FP	李相玉	4
中村	0	FP	江口	0
尾苗	1	FP	鈴木	0
(3)	18	PT	(3)	21

（審・越田、庄司）

第1週第2日（10月26日）

▼名古屋市体育館

大崎電気24（11—10／13—11）**21ジャスコ**

（5勝1分1敗）（3勝1分3敗）

○…前半の中盤あたりからサイド攻撃、カットインプレーなどで一時はリードを広げた大崎であったが、ジャスコも20分過ぎから速攻主体の攻撃で反撃して互角の展開にもちこんだ。

しかし、後半早々に大崎は李相玉がジャスコ反撃の出鼻をくじくロングを決めて2点とし、以後もポストプレーをうまくからめて得点を重ね、最後まで追いすがるジャスコを3点差でかわした。

〔ジャ〕	得		〔大崎〕	得
木村	0	GK	大西	0
小深田	0	GK	梅野	0
寺沢	1	FP	時実	4
石田	2	FP	松尾	0
近藤	9	FP	塩谷	0
鷲野	4	FP	石井	4
服部	0	FP	沖山	2
高岡	2	FP	徳渕	1
寺西	0	FP	金玉花	4
池田美	3	FP	李相玉	9
常石	0	FP	江口	0
池田久	0	FP	鈴木	0
(2)	21	PT	(2)	24

（審・細井、板倉）

▼大分県立総合体育館

立石電機山鹿23（14—11／9—11）**22日本ビクター**

（5勝1敗）（1分5敗）

○…立ち上がり両チームともやや堅さが見られたが、立石は山内のロングシュート、野嶋のステップやジャンプなどで得点を重ねた。一方のビクターも長田、下條らのロングやポスト攻撃で追い上げるが、前半は14—11と立石リード。

後半に入って、両チームともロングとポストプレーを軸にした攻撃で一進一退の試合展開となったが、結局僅かに総合力で上回った立石が勝利を握った。

〔日ビ〕	得		〔立石〕	得
渡辺	0	GK	荒木	0
小口	0	GK	竹下	0
武藤	3	FP	山口	0
長田	9	FP	近藤	1
下篠	3	FP	江口	1
根本	2	FP	岩村	0
平松	0	FP	池上	3
太田	4	FP	野嶋	12
工藤	1	FP	山内	3
枝川	0	FP	福家	0
松井	0	FP	武津	3
永岡	0	FP	中山	0
(5)	22	PT	(4)	23

（審・中本、福田）

第2週第1日（11月1日）

▼四日市市体育館

立石電機19（11―9、8―10）19ジャスコ

山　鹿

（5勝1分1敗）（3勝2分3敗）

○…ジャスコは立ち上がり5分に3―0としたが、立石は10分に追いつきその後シーソーゲームを展開した。18分、立石はシュートから3点連取して優位に立ち、前半を11―9とリード。

　後半に入って、ジャスコは寺沢の連続ゲットで追いつき、ゲームを面白くした。

　中盤、立石はジャスコの浅い攻撃をついて連続インターセプトで連取、18分に山口のシュートで18―14としてこのまま逃げ切るかに見えたが、粘るジャスコは立石の攻撃をよくしのぎ、26分に寺沢が強引に持ち込んで19―19の同点とし引き分けに持ち込んだ。

得	〔立石〕		〔ジャ〕	得
0	荒木	GK	上村	0
0	竹下	GK	小深田	0
4	山口	FP	寺沢	9
3	江口	FP	石田	2
0	岩村	FP	近藤	4
2	池上	FP	鷲野	1
4	野嶋	FP	服部	2
4	山内	FP	高岡	0
0	福家	FP	石田	0
2	武津	FP	寺西	0
0	中山	FP	池田美	1
0	野津	FP	常石	0
19	(2)	PT	(3)	19

（審・岩永、細井）

第2週第2日（11月2日）

▼福島体育館

日本ビクター29（14―9、15―16）25大和銀行

（1勝1分5敗）（2勝5敗）

○…前半はビクターのセットオフェンスに対して大和は速攻で応戦したが、両チームともポイントでミスが多く雑な試合になってしまった。ビクターは武藤を中心によくボールをつないで徐々に点差を広げた。

　大和はよく走ったが、相手ディフェンスの前でのパスが悪く攻撃が止まってしまって逆転することができなかった。

　なお、ビクターの長田はこの試合PTで11得点をあげ、個人1試合最多PT得点の新記録を達成、また、トータルの1試合最多得点も15点のタイ記録とした。

得	〔日ビ〕		〔大和〕	得
0	渡辺	GK	高浜	0
0	小口	GK	増見	0
6	武藤	FP	丸田	4
15	長田	FP	上田	6
4	下條	FP	赤瀬	4
2	根本	FP	佐々木	4
0	平松	FP	植田	1
0	太田	FP	天谷	0
0	工藤	FP	袰川	2
2	枝川	FP	上村	4
0	松井	FP	藤本	0
0	永岡	FP	小池	0
29	(12)	PT	(7)	25

（審・高野、中島）

第2週第3日（11月3日）

▼岩手県営体育館

大崎電気25（14―10、11―7）17大和銀行

（6勝1分1敗）（2勝6敗）

○…立ち上がり両チームとも堅さが見られて互角のスタートとなったが、大崎が大和のミスからの速攻でリズムをつかんで前半をリード。後半は立ち上がりに大和が点差をつめたが、その後は単調な攻めでシュートチャンスをつかめず、ディフェンスの甘さもでて、大崎にミドルシュートやポストを決められて後退した。

得	〔大崎〕		〔大和〕	得
0	大西	GK	高浜	0
0	梅野	GK	増見	0
4	時実	FP	丸田	6
1	松尾	FP	上西	3
0	塩谷	FP	赤瀬	0
8	石井	FP	佐々木	2
1	沖山	FP	植田	1
3	徳渕	FP	天谷	1
0	須永	FP	袰川	0
4	金玉花	FP	上村	1
4	李相玉	FP	藤本	1
0	江口	FP	小池	2
25	(4)	PT	(3)	17

（審・中島、高野）

▼京都府立体育館

日立栃木12（7―5、5―5）10立石電機

山　鹿

（3勝1分3敗）（5勝1分2敗）

○…前半開始直後は、両チームともにシュートが入らず一進一退の攻防を展開。4分30秒に立石・池上が強引なカットインから先制。その後もお互いに点が入らず、5―5で前半を終了した。

　後半、日立・山岸のロングと前田の的確なシュートで徐々に点差を広げ、野嶋のロング、ペナルティで挽回を狙う立石を退けた。

得	〔日立〕		〔立石〕	得
0	葛生	GK	荒木	0
0	梅津	GK	岡本	0
1	手打	FP	山口	0
7	前田	FP	江口	1
0	清水	FP	岩村	1
0	井沢	FP	池上	2
1	吉田	FP	野嶋	6
3	山岸	FP	山内	0
0	菅原	FP	福家	0
0	石毛	FP	武津	0
0	中村	FP	中山	0
0	尾苗	FP	毛利	0
12	(6)	PT	(2)	10

（審・吉田、秋山）

第3週第1日（11月8日）

▼富士吉田市営鐘山スポーツセンター

日本ビクター23（12―8、11―11）19日立栃木

（2勝1分5敗）（3勝1分4敗）

○…立ち上がり堅さの見えた両チームだったが、8分日立の前田が先取点を決めるとビクターも長田がすぐ取り返し、13分までにはビクターが5―2とリードして主導権を握ったかにみえたが日立も山岸のロングで反撃、さらに22分前田がリーグ個人通算得点新記録の258点目のPTを決め2点をリードしたが、ビクターもゆずらず前半は同点で終った。

　後半3分からビクターは、根本

得	〔日ビ〕		〔日立〕	得
0	渡辺	GK	葛生	0
0	小口	GK	岡本	0
4	武藤	FP	手打	3
10	長田	FP	前田	6
0	下條	FP	清水	0
4	根本	FP	井沢	2
0	平松	FP	吉田	1
0	太田	FP	山岸	4
2	江藤	FP	菅原	0
3	枝川	FP	石毛	1
0	松井	FP	中村	0
0	永岡	FP	尾苗	1
23	(6)	PT	(2)	18

（審・水越、上小沢）

のスカイプレーなどで8連続得点、以後ディフェンスをかため日立の反撃を許さなかった。

▼下関市体育館

立石電機 19（9—9、10—3）12 大和銀行
山　鹿

（6勝1分2敗）（2勝7敗）

○…前半大和の丸田、㭗川のパワフルなロングシュートはいずれもクロスバーを直撃、得点には至らなかったものの後半への期待いだかせた。立石は後半なかばまでもたつきながらも粘り強い守りを見せ、12—11からの後半15分には2人退場という最大のピンチを無得点できりぬけ、以後の5点連取に結びつけて粘る大和をふり切り千秋楽結びの一番での大崎との直接対決に逆転Vへ望みをつなげた。

〔大和〕		得
GK	高浜	0
GK	増見	0
FP	丸田	0
FP	上西	2
FP	赤瀬	1
FP	佐々木	1
FP	植田	2
FP	㭗川	1
FP	上村	3
FP	藤本	0
FP	小池	2
FP	渡辺	0
PT	(3)	12

（審・古冨・岡村）

〔立石〕		得
GK	荒木	0
GK	岡本	0
FP	山口	1
FP	江口	1
FP	岩村	3
FP	池上	2
FP	野嶋	6
FP	山内	2
FP	福家	0
FP	武津	3
FP	毛利	1
PT	(6)	19

第3週2日（11月9日）

▼栃木市総合体育館

日立栃木 21（9—8、12—10）18 ジャスコ

（4勝1分4敗）（3勝2分4敗）

○…ジャスコの2点先取で始まったが、前半はシーソーゲームとなり、日立の1点リードで終了。

後半のジャスコは近藤が8得点と1人で気を吐いたが、日立はソツのないゲーム運びで逃げ切った。

〔ジャ〕		得
GK	木村	0
GK	小深田	0
FP	寺沢	0
FP	石田	4
FP	近藤	10
FP	鷲野	1
FP	服部	1
FP	高岡	1
FP	寺西	0
FP	池田美	1
FP	常石	0
FP	池田久	0
PT	(3)	18

（審・横瀬・矢澤）

〔日立〕		得
GK	葛生	0
GK	岡本	0
FP	手打	1
FP	前田	9
FP	清水	2
FP	井沢	3
FP	吉田	2
FP	山岸	4
FP	菅原	0
FP	石毛	0
FP	中村	0
FP	尾苗	0
PT	(4)	21

▼水海道市民体育館

大崎電気 27（14—11、13—13）24 日本ビクター

（7勝1分1敗）（2勝1分6敗）

○…両チームともにファイトあふれるプレーの応酬で最後まで目の離せないスリリングなゲームとなった。しかし、その後速攻で絶好のチャンスをパスミスで逃がすとズルズルと後退、大崎に逃げ切られてしまった。

大崎・李相玉の豪快なロングシュートが大事な場面で決まり、勝利の原動力となった。

〔日ビ〕		得
GK	渡辺	0
GK	小口	0
FP	武藤	7
FP	長田	7
FP	下條	3
FP	根本	1
FP	平松	0
FP	工藤	1
FP	枝川	5
FP	松井	0
FP	永岡	0
PT	(3)	24

（審・後藤・酒井）

〔大崎〕		得
GK	大西	0
GK	梅野	0
FP	時実	2
FP	松尾	1
FP	塩谷	0
FP	石井	5
FP	沖山	2
FP	徳渕	6
FP	須永	0
FP	金玉花	1
FP	李相玉	10
FP	江口	0
PT	(2)	27

第4週第1日（11月15日）

▼岐阜県民体育館

ジャスコ 20（10—7、10—12）19 日本ビクター

（4勝2分4敗）（2勝1分7敗）

○…立ち上がり日本ビクターはPT、速攻、ロングなどで4点を連取。一方ジャスコは、10分近くまでビクターの堅い守りにペースをつかめないでいたが、16分に同点、18分には逆転した。ジャスコはそのままペースをつかみ10—7で折り返す。

後半に入りビクターは徐々につめより、26分には1点差までいったが、結局地力に勝るジャスコが20—19でふりきった。

〔日ビ〕		得
GK	渡辺	0
GK	小口	0
FP	武藤	1
FP	長田	10
FP	下條	4
FP	根本	2
FP	平松	0
FP	太田	0
FP	工藤	1
FP	枝川	1
FP	松井	0
FP	永田	0
PT	(7)	19

（審・小山・飼沼）

〔ジャ〕		得
GK	小深田	0
GK	山口	0
FP	寺沢	4
FP	石田	4
FP	近藤	10
FP	鷲野	1
FP	服部	1
FP	高田	0
FP	寺西	0
FP	池田美	0
FP	常石	0
FP	池田久	0
PT	(4)	20

▼広島県立体育館

日立栃木 22（12—8、10—14）22 大和銀行

（4勝2分4敗）（2勝1分7敗）

○…後半に入って果敢なカットイン、速攻プレーなどで猛反撃、前半4点のハンデをひっくり返して残り4分22—21と逆転に成功した大和だったが、このあとの追い討ちがなく、日立・山岸に同点のロングシュートを決められて惜しくも引き分け、この日ジャスコに敗れたビクターと同勝点で並んだものの、対戦間得点差で僅か1点劣って最下位に甘んじる結果となった。

一方、前半20分11—5と大きくリードしながら歯切れの悪い攻撃で引き分けに持ち込まれた日立もAクラスからすべり落ちて4位。攻撃のつながりにスムーズさを欠き、エース前田、速攻ウーマン井沢の得点力にかげりが見えたのが苦戦を招く要因となっていた。

〔大和〕		得
GK	高沢	0
GK	増見	0
FP	丸田	4
FP	上西	2
FP	赤瀬	4
FP	佐々木	3
FP	植田	3
FP	天谷	0
FP	㭗川	1
FP	上村	1
FP	小池	3
FP	渡辺	1
PT	(3)	22

（審・里・萬場）

〔日立〕		得
GK	葛生	0
GK	岡本	0
FP	手打	2
FP	前田	7
FP	清水	1
FP	井沢	3
FP	吉田	1
FP	山岸	7
FP	菅原	0
FP	山口	0
FP	石毛	0
FP	尾苗	1
PT	(2)	22

第4週第2日（11月16日）

▼熊本市総合体育館

立石電機 20（8—10、12—6）16 大崎電気
山　鹿

（7勝1分2敗）（7勝1分2敗）

○…両チームともに優勝を賭けた一戦で、試合は緊迫したムード

で始まった。前半は両チームともデイフェンスがよく、残り10分まで4—4と守り合いとなった。しかし22分大崎・金玉花のポストシュートを皮切りに李相玉、再び金玉花と得点して9—5とリードしたが、立石もよく踏みとどまり速攻PTで盛り返して前半を8—10と2点差につけた。

後半に入り立石は6分、池上のサイドシュートで同点としさらに逆転、その後も連続して速攻を決め14—11と差を開きさらにポストなどうまく攻め残り3分には20—15とした。立石が優勝する為には4点差以上の勝ちが絶対条件であったが、残り23秒に大崎・金玉花の速攻の1点に押えて20—16の4点差で勝ちリーグ優勝を決めた。

〔大崎〕	得
大西	0
梅野	0
時実	2
松尾	1
塩谷	0
石井	2
沖山	0
徳渕	2
須永	0
金玉花	6
李相玉	3
江口	0
(2)	16

GK　FP　PT　〔審・田原 森山〕

〔立石〕	得
荒木	0
岡本	0
山口	2
江口	1
岩村	1
池上	6
野嶋	7
山内	2
田中	0
福家	0
武津	1
中山	0
(5)	20

▼個人賞

〔ベストセブン〕
GK　荒木晴美（立石電機山鹿）
FP　李　相玉（大崎電気）
　　丸田紀子（大和銀行）
　　野嶋ちえみ（立石電機山鹿）
　　長田友子（日本ビクター）
　　前田重子（日立栃木）
　　近藤育子（ジャスコ）

〔最多フィールドゴール賞〕
李　相玉（大崎電気）　62点

〔最高シュート率賞〕
近藤育子（ジャスコ）　0・549

〔PT得点賞〕
長田友子（日本ビクター）　43点

〔優勝監督賞〕
井　薫（立石電機山鹿）

日本リーグ2部

（男子）大同特殊鋼　（女子）ブラザー工業が制す

〔男子〕

◈11月2日
▼大崎電気体育館
日鉄建材 29（15—11　14—15）26 大阪イーグルス
トヨタ自動車 26（12—9　14—12）21 トヨタ車体
本田技研熊本 34（15—14　19—11）25 大阪ガス

◈11月3日
▼大崎電気体育館
トヨタ車体 26（12—15　14—11）26 本田技研熊本
トヨタ自動車 43（22—13　21—16）29 大阪イーグルス
大同特殊鋼 31（17—8　14—8）16 大阪ガス
日鉄建材 30（17—12　13—13）25 中村荷役

◈11月15日
▼ブラザー工業体育館
大同特殊鋼 26（11—10　15—10）20 日鉄建材

◈11月16日
▼熊本市総合体育館
日鉄建材 20（11—7　9—12）19 本田技研熊本

◈11月16日
▼ブラザー工業体育館
大同特殊鋼 34（13—9　21—7）16 トヨタ自動車
大阪イーグルス 21（11—9　10—12）21 トヨタ車体
大阪ガス 30（14—9　16—15）24 中村荷役

〔順位〕①大同特殊鋼②トヨタ自動車③トヨタ車体④日鉄建材工業⑤本田技研熊本⑥大阪ガス⑦中村荷役運輸⑧大阪イーグルス

〔女子〕

◈10月25日
▼石川県体育館
シャトレーゼ 27（15—15　12—7）22 北国銀行

◈11月2日
▼大崎電気体育館
東京重機 31（17—13　14—12）25 北国銀行
▼福島体育館
ブラザー工業 29（14—8　15—5）13 ムネカタ

◈11月3日
▼大崎電気体育館
東京重機 20（9—6　11—7）13 シャトレーゼ
北国銀行 28（15—8　13—15）23 ソニー国分

◈11月8日
▼富士吉田市営鐘山スポーツセンター
ブラザー工業 35（17—4　18—9）13 ソニー国分
シャトレーゼ 33（18—4　15—5）9 ムネカタ

◈11月9日
▼塩山中学体育館
東京重機 27（15—7　12—12）19 ソニー国分
北国銀行 33（18—7　15—9）16 ムネカタ
ブラザー工業 32（19—10　13—14）24 シャトレーゼ

◈11月15日
▼ブラザー工業体育館
ブラザー工業 27（15—7　12—14）21 北国銀行
シャトレーゼ 31（14—4　17—8）12 ソニー国分
東京重機 23（16—7　7—7）14 ムネカタ

◈11月16日
▼ブラザー工業体育館
ソニー国分 24（7—12　17—10）22 ムネカタ
ブラザー工業 20（6—9　14—10）19 東京重機

〔順位〕①ブラザー工業②東京重機③北国銀行④シャトレーゼ⑤ムネカタ⑥ソニー国分

日本リーグ入替戦（11月22、23日／大阪市中央体育館）

〈男子〉

▼第1戦

トヨタ自動車 26（16－8、10－8）16 三陽商会

○…前半、トヨタは川田のロング、フェイントからの切り込みと一人で得点をあげる。一方三陽はマンツーの攻めに固執し、足の動きが悪くリズムに乗れない。
後半、川田からのパスを左、右のサイドが確実にシュートを決め、差を広げた。
三陽は、余りにも個人プレーに頼りすぎた感がある。

〔三陽〕	得		〔トヨタ〕	得
内野	0	GK	中西	0
宇田川	0	GK	西井	0
関	1	FP	坂口	1
清家	4	FP	平野	0
田口	3	FP	乙子	0
砂川	2	FP	堀江	3
山口	1	FP	中西	1
石原	0	FP	相本	4
実方	5	FP	川田	10
安藤	0	FP	香井	7
河村	0	FP	松永	0
吉原	0	FP	宮崎	0
	16			26
	(1)	PT		(1)

（審・前川 秋永）

大同特殊鋼 33（16－10、17－6）16 三景

○…一部復帰に闘志を見せる大同は、蒲生、中本のベテランを軸に若手がプレッシャーを感じさせない伸び伸びとしたプレーを終始展開し、田畑、近藤など互角の走りで食い下がる三景を厚いディフェンスで突き放し、2年ぶりの一部へ確かな手応えをつかんだ。

〔三景〕	得		〔大同〕	得
中村	0	GK	上村	0
北川	0	GK	秋吉	0
田畑	2	FP	田中	0
近藤	5	FP	高村	7
高橋	0	FP	小野	3
峰尾	0	FP	市川	7
福永	0	FP	中本	3
田村	1	FP	蒲生	6
鈴木	4	FP	横浜	6
山田	1	FP	佐藤	1
大谷	0	FP	海江田	0
郡司	3	FP	名取	0
	16			33
	(0)	PT		(1)

（審・島崎 井上）

▼第2戦

トヨタ自動車 31（13－10、18－14）24 三陽商会

○…昨日10点差勝ちを収めたトヨタ自動車は、攻守に元気なプレーを見せ、精彩のない三陽のスキをつき、10分過ぎには5点差をつけた。三陽も何とか踏んばるが、一進一退のまま前半終了。
後半も、元気なトヨタと明暗を分けた三陽の結果がそのまま現われ、トヨタが初の一部昇格を決定した。

〔三陽〕	得		〔トヨタ〕	得
内野	0	GK	中西	0
宇田川	0	GK	西井	0
関	8	FP	坂口	0
清家	2	FP	平野	0
田口	3	FP	堀江	4
砂川	6	FP	中西	2
山口	4	FP	松尾	0
石原	0	FP	相本	5
実方	0	FP	川田	9
安藤	0	FP	香井	11
河村	1	FP	松永	0
吉原	0	FP	宮崎	0
	24			31
	(1)	PT		(1)

（審・前川 秋永）

大同特殊鋼 27（15－10、12－7）17 三景

○…立ち上がりから双方ともシュートミス、パスミス、反則などで大味な試合展開。大同が徐々に加点し前半5点をリード。
後半も同じような展開で、大同が三景を寄せつけず、2年ぶりの一部復帰を決めた。

〔三景〕	得		〔大同〕	得
中村	0	GK	上村	0
北川	0	GK	秋吉	0
田畑	5	FP	田中	0
近藤	3	FP	内藤	4
高橋	0	FP	高村	8
峰尾	0	FP	小野	3
福永	0	FP	市川	4
田村	3	FP	中本満	0
鈴木	4	FP	中本千	2
日越	0	FP	蒲生	0
山田	1	FP	横浜	4
郡司	1	FP	海江田	2
	17			27
	(1)	PT		(1)

（審・島崎 井上）

〈女子〉

▼第1戦

東京重機 22（12－9、10－10）19 日本ビクター

〔日ビ〕	得		〔重機〕	得
渡辺	0	GK	石井	0
小口	0	GK	大角	0
武藤	3	FP	山崎	4
長田	6	FP	市川	4
下條	2	FP	佐藤	6
根本	3	FP	嶋田	0
平松	0	FP	藤井	0
太田	0	FP	伊原	0
工藤	4	FP	古谷	2
枝川	0	FP	大林	5
松井	1	FP	矢田	1
永岡	0	FP	星	0
	19			22
	(2)	PT		(0)

（審・川島 森）

○…前半は互角の展開。後半立ち上がりはビクターがリード。しかし、10分過ぎ重機はパスカットからの速攻が2本連続で決まり逆転。そのリードを保って終了。
速攻、ロングと攻めが多彩であった分、重機の勝利につながった。

大和銀行 22（11－10、11－4）14 ブラザー工業

○…昨年と同じ対決となったが、固くなってノーマークを再三はずすブラザーを尻目に、大和は全員足がよく動き、プレス・ディフェンスで小池、荒木のロングを封じる一方、速攻、サイド、ポストで着々加点、ムラなく得点を重ね、11－4の大差で折り返す。
後半、ようやくエンジンのかかったエース小池らで追い上げるが最後まで大和の気迫のこもった守りに差を縮める事ができなかった。

〔ブ工〕	得		〔大和〕	得
畑添	0	GK	高浜	0
大藪	0	GK	増見	0
荒木	1	FP	丸田	4
小池	7	FP	上西	1
茂山	2	FP	赤瀬	4
中村	0	FP	佐々木	4
道上	1	FP	植田	1
太田	1	FP	天谷	0
久保田	2	FP	小池	4
末永	0	FP	褜川	1
大久保	0	FP	上村	3
松尾	0	FP	藤本	0
	14			22
	(2)	PT		(5)

（審・北山 大原）

▼第2戦

日本ビクター 26（11－10、15－11）21 東京重機

○…前半、立ち上がり10分でビクターが3点リード。その後、重機も点差をつめたがビクターも盛り返し、結局前半はビクターが4点をリード。
後半は一進一退がつづき、点差がつまらないまま終盤へ。重機はあせりからシュートミスなどで点が伸びず、そのままビクターが逃げ切り一部残留を決めた。

〔重機〕	得		〔日ビ〕	得
石井	0	GK	渡辺	0
大角	0	GK	小口	0
山崎	5	FP	武藤	7
市川	2	FP	長田	3
佐藤	2	FP	下條	8
嶋田	0	FP	根本	4
藤井	0	FP	平松	0
伊原	0	FP	太田	0
古谷	6	FP	工藤	0
大林	4	FP	枝川	4
矢田	2	FP	松井	0
星	0	FP	永岡	0
	21			26
	(2)	PT		(2)

（審・川島 森）

ブラザー工業 19（9－10、10－6）16 大和銀行

○…前日の大敗からうって変って前半ブラザーが波にのり、小池、荒木のシュートで4点をリード、後半に期待がかかった。
しかし、後半は大和が立ち上がりから3点を連取、その後ブラザーが加点したが、あせりからかシュートミスなどでリズムにのりきれず、大和の一部残留となった。

〔大和〕	得		〔ブ工〕	得
高浜	0	GK	畑添	0
増見	0	GK	大藪	0
丸田	2	FP	荒木	3
上西	2	FP	小池	5
赤瀬	1	FP	茂山	1
佐々木	1	FP	中村	1
植田	2	FP	道上	1
天谷	0	FP	太田	2
小池	4	FP	久保田	5
褜川	1	FP	末永	0
上村	2	FP	松尾	0
渡辺	1	FP	大久保	1
	16			19
	(4)	PT		(3)

（審・大原 北山）

molten

瞬間、
信頼の手がかり!

独自の32面体
ノンスリップ構造で
ダイナミックプレーを演出する
モルテンハンドボール

独特のリブ形状とパネル間段差の"32面体ノンスリップ構造"で確かな手がかりを生み出すとともに、ナイロン糸巻構造をほどこし、すばらしい耐久性、真球性をも実現したモルテンハンドボールは、日本ではじめて国際ハンドボール連盟（I.H.F.）公認を獲得。ハンドボーラーの圧倒的な人気と信頼を集めています。

MTH3 検定球3号

●日本ハンドボール協会検定球(J.H.A.)　●国際ハンドボール連盟公認球(I.H.F.)

モルテン
ハンドボール

株式会社モルテン
東京本社　東京都墨田区横川5－5－7 〒130 ☎(03)625－7581
東京・大阪・広島・名古屋・福岡・札幌・ロサンゼルス・デュッセルドルフ

800㎡の青春

ねばり強いディフェンス、そして鋭いシュート！800㎡のコートにとび散る汗。ハンドボールは、頭脳と技の闘いだ。空間に舞う身体、全身がひとつになりVへのゴールにボールが躍る。ミカサのハンドボールは、優れた弾力性と強度、そして手に吸いつくような感触で全世界のプレーヤーから絶賛を浴びています。勝利を目指す人の、ミカサのハンドボール。

新製品
小学生用軽量ハンドボール

MIKASA HAND BALL SIZE2 MG-H2

重量265g
検定球
¥3,300

MGH3

MIKASA

本　社／〒733 広島市西区楠木町3丁目11-2 ☎(082)237-5145㈹
営業所／東京・大阪・名古屋・広島・福岡

第29回（女子22回）全日本学生選手権大会

〈男子〉国士舘大が初優勝　〈女子〉東女体大が7年ぶり6回目の優勝

男子29回、女子22回を迎えた今年の全日本学生選手権大会は、11月20日から24日までの5日間、京都の伏見港公園総合体育館、府立体育館の2会場を使用して開催された。

22校が参加した男子は、昨年の覇者の大阪体育大と、準決勝で筑波大を第2延長の激戦の末破って勝ち残った国士舘大の両校で決勝が争われた。

国士舘大は、接戦を勝ち抜いて来た勢いで、決勝でも大体大に粘り勝ち、初優勝に輝いた。

一方の女子は16校が参加、東京女子体育大対筑波大という東日本学生、関東学生リーグと同じ優勝争いとなったが、東女体大が終始優勢に展開、7年ぶり6回目の優勝を決めた。

〈男子〉

▼1回戦

大阪経済大 34（18-12, 16-13）25 東北学院大
日本体育大 41（22-7, 19-11）18 久留米工大
近畿大 31（15-13, 16-13）26 愛知学院大
早稲田大 32（18-12, 14-11）23 山口大
法政大 35（18-12, 17-12）24 中部大
京都教育大 27（14-10, 13-15）25 金沢大
慶応大 24（14-7, 10-10）17 京都産業大
中京大 33（18-7, 15-6）13 北海道大

▼2回戦

大阪体育大 39（24-6, 15-7）13 大阪経済大
中央大 24（15-10, 9-13）23 日本体育大
天理大 27（12-8, 15-11）19 近畿大
日本大 20（8-7, 12-12）19 早稲田大
法政大 28（13-12, 15-6）18 法政大
国士館大 31（15-8, 16-8）16 京都教育大
福岡大 28（14-11, 14-14）25 慶応大
筑波大 22（5-2, 2-2, 6-7, 9-8）19 中京大

▼準々決勝

大阪体育大 33（18-9, 15-9）18 中央大
日本大 36（18-10, 18-11）21 天理大
国士舘大 26（15-14, 11-10）24 法政大
筑波大 33（14-10, 19-12）22 福岡大

▼準決勝

大阪体育大 25（14-9, 11-8）17 日本大
国士舘大 26（1-1, 2-1, 1-0, 2-3, 12-10, 8-10）25 筑波大

▼3位決定戦

日大 21（9-7, 12-12）19 筑波大

▼決勝

国士舘大 20（11-9, 9-8）17 大阪体育大

〈女子〉

▼1回戦

東京女子体育大 41（21-4, 20-7）11 天理大
福岡教育大 25（15-4, 10-7）11 山口大
日本体育大 33（18-2, 15-5）7 岩手大
武庫川大 36（15-4, 21-4）8 金沢大
筑波大 33（16-2, 17-2）4 岡山大
中京女子大 29（14-9, 15-11）20 福岡大
日本女子体育大 28（13-12, 15-7）19 大阪教育大
大阪体育大 21（12-6, 9-7）13 東京学芸大

▼2回戦

東京女子体育大 44（24-6, 20-3）9 福岡教育大
日本体育大 23（10-11, 13-9）20 武庫川大
筑波大 28（4-3, 0-0, 13-11, 11-13）27 中京女子大
大阪体育大 18（9-6, 9-6）12 日本女子体育大

▼準決勝

東京女子体育大 29（14-6, 15-15）21 日本体育大
筑波大 31（13-10, 18-6）16 大阪体育大

▼3位決定戦

日本体育大 24（12-9, 12-8）17 大阪体育大

▼決勝

東京女子体育大 25（14-13, 11-7）20 筑波大

MIZUNO
THE WORLD OF SPORTS

SINCE 1906
ボクら、万有引力とたたかわれる

コンケーブ意匠
ヘリボーン意匠
サイドモーション サポートリフ
ピボットリング
フレキシブルゾーン

パワー効率重視。コートのマシン〈ランバード〉

室内コート専用のマルチファンクション ソール。

前後左右、あらゆる方向へのトラクション性にすぐれたヘリンボーン意匠をベースに、かかとには着地時の衝撃を吸収、分散するコンケーブ意匠を配置。また、ソール前半にはパワーロスを防ぐサイドモーション サポートリブ、回転運動の軸となるピボットリングをはじめ、屈曲性を高めるフレキシブルゾーンなどをレイアウト。多様なプレーに対応するソールパターンが生まれました。

〈ランバード〉ハンドボール シューズ
《ウイング ショット》¥12,000
●甲/牛革 ●補強材/人工皮革 ●底/ラバー ハーフ シェル ソール
●カラー/16KH-1527 ホワイト・レッドにメタリックネイビー ライン
/16KH-1562 ホワイトにレッド ライン

グッドウィルゲームズに帯同レフェリーとして参加して

岡本研二・清水宣雄

［はじめに］

グッドウィル・ゲームズの記念すべき第1回大会に、帯同レフェリーとして派遣して頂けたことは、大変な名誉であり、モスクワでの経験は、一生の思い出となりました。

しかし、たったひとつ非常に残念な事がありました。それは、私たちがこの大会において審判をすることができなかったのです。初めの大会要項では、帯同レフェリー制という事だったのですが、選手村であるモスクワホテルに着いてみると、私たちのIDカードがなく、翌日のオフィシャルミーティングに出席すると、参加しているレフェリーは、スウェーデン、チェコスロバキヤ、ユーゴスラビヤに地元のソ連だけなのです。大会役員の説明では、レフェリーを、チームが参加していない国から招いたとのことでした。私たちのレフェリングが、どれだけ世界に通用するかを、確かめることが第一の目的であっただけに、大きなショックを受けたことはいうまでもありません。

ただ、審判をすることができなかったことを除けば、完全にレフェリーとしての待遇を受けることができ、会場への出入りも自由であったので、世界のトップレベルの試合を間近でみることができたのが、不幸中の幸いでした。

また、世界学生選手権で知り合ったソ連のレフェリーや、スウェーデンのトップレフェリー、井監督の紹介でユーゴのレフェリーと話をする機会を得ましたので、これらの話を総合しながら観察の感想をまとめ、今後のための意見を述べさせて頂き、報告としたいと思います。

［キックボールについて］

各国で差があります。

〈スウェーデン〉

「ルールブック通りである。足に触れたからといって、すぐに反則とするわけではない。その後の展開が有利になったかどうかを判断する」

〈ソ連〉

「ルールブックとは異なるが、ソ連では、足に触れた場合は、すぐに反則と判定する」

〈ユーゴ〉

「ルールブック通りである。足に触れたからといって、すぐに反則とするわけではない。その後の展開が有利になったかどうかを判断する。相手がボールを取れば流すが、味方が取れば反則と判定する」

［オーバーステップについて］

この問題については、語学力の不足もあって、詳しく話をすることはできませんでしたが、ゲームを観察した感想では、各国のレフェリー間に目立った差は見られませんでした。わが国の判定と比較すると、若干差が見られましたが、それは両足を同時に着地しようとした時の歩数の数え方の違いではないかと思われます。左右の足の瞬間的な着地のずれは、一つの歩数として判定をしているのではないかという印象を受けました。

［罰則の適用について］

国ごとペアーごとにかなりの差が見られました。ひとつひとつのゲームとして見てみると、基準が一定していて違和感はありませんでした。

個々のペアーの印象としては、ソ連のペアーが最もあまく、スウェーデンのペアーが最も厳しかったように思います。1ゲームで、最高9回の退場を見ましたが、どの退場も非常に納得のいくものであり、全く違和感はありませんでした。

全体的な印象としては、身体接触に対する判定が、予想していたよりは厳しくなかったと言えます。しかし、これはレフェリーがラフプレーを許しているという訳ではなく、選手自体がボール中心にプレーしていること、多少の身体接触ではボールと身体の自由を失わないこと、プレーを中断させないことが最重視されていることの結果であると思われます。

わが国における判定と比較すると、ボールに対するファールの寛容性がより高く、ボールを意図したプレーであれば、かなりの身体接触が許されているように見受けられました。

ユーゴのレフェリーに対し、罰則の段階的適用について質問したところ、次のような答えが返ってきました。

「ルールブック通りである。同じ反則をくり返せば、警告そして退場になる、これはチームメイトの

場合も同様である。しかし、警告や退場を与えるかどうかは、レフェリーのタクティクスである」

［今後のために］

わが国の審判界における、早急に解決しなければならない問題として、審判の国際化の問題があります。ソ連のレフェリーでさえ、自分たちがヨーロッパの外れにいるために、各種の大会に参加する機会が少なく、情報が良く伝わって来ないと嘆いています。増して、日本は地球の反対側で、より不利な立場にあります。もっともっと努力をしなければ、遅れる一方でしょう。

もはや、個人の努力で国際化を目指すには、限界があるのではないでしょうか。協会としての太いパイプを持たなければ、今回のようなトラブルは絶えないのではないでしょうか。

この問題を解決するためには、できるだけ多くのペアーを各種の大会に派遣して、IFの役員と親しくなる必要があるでしょう。そのために、IFの役員、トップレフェリー、ナショナルチームの監督のデータを網羅した写真集を用意し、派遣されるペアーに持たせるべきです。また、トラブルを少なくするためにも、大会要項、招待状の類は、絶対に携帯すべきでしょう。

今大会の審判を観察して、一番感じたことは、各ペアーが必ずしも共通の基準で判定をしていないということです。しかしそれでも、ゲームはスムースに運営されていました。これは各ペアーが個性を十分に発揮しながらも、卓越した管理能力によってゲームを運営しているためであり、ここにレフェリーの真価が問われているからではないでしょうか。

しかし、わが国においては、レフェリーの善し悪しが、ひとつひとつ判定によって評価され、全体的な運営能力が見落とされてはいないでしょうか。

このような意味において、レフェリーに対する評価、指導の方法は非常に重要な意味を持っており、良いレフェリーを育てるために、十分に検討するべきでしょう。

以上の事柄から総合的に考えて、大会ごと、国ごと、ペアーごとに異なるヨーロッパの判定基準に振り回されるよりも、わが国の現状、将来の展望を基に、各界の立場の意見を組み入れた、「日本の判定基準」を定めることが、今一番必要なことではないでしょうか。

［おわりに］

まだまだ経験の浅い若輩者の私たちに、このような大きなチャンスを与えて頂き、審判長の岡前先生をはじめ、日本協会の皆様に対し、感謝の気持ちに堪えません。今回の貴重な経験を基に、ハンドボールの発展のために、より一層の努力をしたいと思います。

本当に有難うございました。

ユーゴスラビアで学んだこと

8月に男子ナショナルチームが行なったユーゴ合宿報告の第2弾。ここに紹介される技術を、各チームでも十分に活用して下さい。

6-0DFについて

●志賀良弘

6－0DFの基本体型は、ゴールエリアラインに一線に並び、常にボールに対して全員が寄って行く。（DFの間をあまり広げないようにする）。

注：6－0DFの各ポジションをGKから見て右から⚠1⚠2⚠3⚠4⚠5⚠6とする。（図1）

6－0DF各ポジションの動き（基本）（図2）

一人一人は、一対一は必ず守る。手を上げる。声を出す。これが基本となる。

⚠1と⚠6は、ゴールエリアラインに平行に動く。前には出ない。フットワーク。

⚠2⚠3⚠4⚠5は、ゴールエリアラインに平行に動くのと、9～10m付近へのピストンを行なう。

ピストン、フットワークは、できるかぎり速く行なう。

⚠2と⚠5は、正面に攻めてくるOFと外側に攻めてくるOFに対しては、前につめてあたり、OFの動きを止める。①OFのきき腕をつぶし、身体を密着し、片方の腕でOFの腰を押さえる。中央側にずれていくOFに対しては、⚠3と⚠4があたり、OFの動きを止める。↓ファールをとる。（図3）

各ポジション共、基本的には、ポジションチェンジは行なわない。

9～10m付近では、OFに十分なプレーをさせないようにする。↓ファールをとる。①のように、相手の攻撃を分断する。前につめるに対しては、相手OFの状態（シュートをねらっているのか、パス回しだけなのか）を判断するようにする。ボールを持ったOFに対して必ず一人がつめ、それに対して後の5人は寄る。（図4）

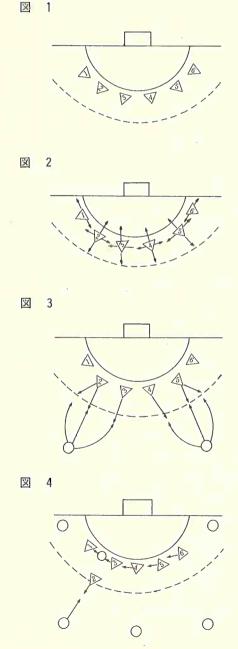
つめた一人は、9～10m付近ならあたり、そうでない時はポストにボール通されないように手を上げる。

ポストがいる場合は、必ずポストの前に立つようにする。また、前につめる場合は、必ずポストを横のDFにわたすようにして前につてる。ポストにボールが入った場合は、二人ではさんでつぶし、シュート、パスができないようにする。

ボールに対して、身体が正対するようにする。

前に出る時は、必ず声を出して、自分が出るということを他のDFに分かるようにする。

マークをチェンジする際も、必ず声を出してチェンジする。ダブって出ることのないようにする。

6－0DFを行なうための基本練習

1対1

1－① DFあたり　互いに向い合って、左腕は相手の左肩、右腕は相手の右腰を押し合う。足は前後にする。これを左・右交互に行なう。

② 〃　互いに向かい合って、お互いの右肩同士をぶつけ合い、その時お互いの右腕は相手の左腰を押すようにする。足は前後する。これを左・右交互に行なう。

③ 〃　互いに向かい合って、1人がDF、1人がOFで、OFは、ジャンプシュートをねらうようにジャンプする。DFは、それに対して、①の要領で肩にかわってきき腕をつぶす。もう一方の手は、腰にあて押す。DFは決してジャンプしない。

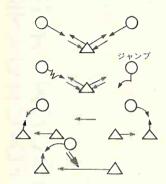
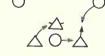
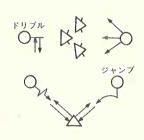
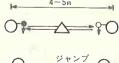
④ 〃　オールコートを使って、③を連続して行なう。

3人一組で行なう。

2－① 2人OFで1人DF　DFは、1人のOFに対して前につめて当り、ピストンして次にもう一人のOFに対して、前につめて当たる→連続して行なう。必ずきき腕をつぶすようにして、一方の腕はOFの腰を押す。

② 〃　OFは、1人がフェイント、もう1人がジャンプ。DFは、2－①の要領で前につめて当たりピストンする→連続して行なう。

③ 1人OFで2人DF　OFはシュートをねらう。それに対してどちらか1人のDFが、前につめて当り、もう1人のDFがそれに対してフォローする。OFの攻める方向によってDFのつめをかえる。ピストンを行なう→連続して行なう。

④ 〃　OFは、シュートをねらい2－③の要領でつめて来たDFとフォローに来たDFに対してシュートを打ち、フォローDFに対してボールをあてる→連続して行なう。

5人一組で

6—0DFにおける、中央の2人、4人の練習

3人OF、2人DFで、DF2人の間にポストをおき、上で2人のOFがボールをパスして前を攻める。その時、OFが攻めてきたのに対して1人のDFが前につめて当たり、もう一方のDFはポストをマークする。

前につめる際は必ずポストを次のDFにわたすようにしてつめる。

また、つめる時には、OFの状態（シュートをねらっているのか）パスだけなのか、よく判断するようにする。

シュートをねらって入って来た時は、必ずつぶす。→ファールきき腕つぶし、身体を密着。

シュートをねらっていなくて、それに対してつめた場合、必ず手を上げて、ポストに入るパスをカットするということを考えて行なう。

ボールを使っての6—0DFの基本練習

3人一組で行う。

3－① 1人OF，1人DF，もう1人はDFの後でドリブルをする。DFはOFのフェイントに対してつく。その際、DFは後のドリブルの音を聞いて、ボールがどこにあるかを確認しておく。OFは常に見ておく。

② ボール2個使って
1人DF、2人OF
OFは、1人がフェイントで、もう1人はジャンプシュートをねらう。DFはフェイントで攻められてくるOFに対して、つめて当たり、ピストンし、次にジャンプシュートをねらってくるOFに対して、つめて当たりピストン→連続して行なう。
必ずきき腕をつぶし身体を密着させて片方の腕は、相手の腰にもって行って押す。

③ ボール2個使って
1人DF、2人OF
OFの2人は、4～5m離れて立ち、ボールを持つ。DFは2人の間に入ってフットワークで、OFのところまで行き、OFが落とすボールを床に落ちる前に拾い、すぐパスし、もう一方のOFの所までフットワークして同じように行なう→連続する。速いフットワークで行なう。

④ ボール2個使って
1人DF、2人OF
2人のOFは、クロス攻撃を行なう。1人がフェイントで入り、クロスして次のOFはジャンプ、それに対してDFは当たる→連続して行なう。きき腕はつぶす。

3－①、②、③、④の間に、2対1のカットを入れて、呼吸を整える。2対1のカットは、DFで前につめた時に、ポストに通されるパスをカットする為に役だつ。前につめた時は、この要領で手を上げて動かす。

ユーゴの0−6ディフェンスに対するオフェンスについて

●横浜　順

ユーゴスラビアの0−6ディフェンスの特徴として、サイドディフェンスは前へつめないで横のフットワークだけでディフェンスし、各ポジションのチェンジはしないこと。シューターに対しては、つめを早くし、確実にボールをデッドしてしまうというようなディフェンスに対して、私たちは5つの攻撃パターンを教えてもらった。

(1)・△1のパスから△2がシュートを狙い、次に△4がシュートを狙って△5にボールをふっている間に△2と△4はクロスして△2は△5からパスを受けてシュート。打てない時は、△3△4△5にパスをする。その判断は、△2が行なう。ポストの位置は③と④の間に位置する。

(2)・△2と△4は位置をチェンジしておく。2のパスをしたら、△4は対角のポストへ入る。この時△3とクロスする形になる。△4からパスを受けた△3は、アウトへ走りシュートを狙ってから△2へパス。△2は②の上から打てるように走る。

ポストは①と②、⑤と⑥の間に位置する。

(3)・△1から△4へパス。△4は③の前で△2とクロスして△2はシュートを狙って△5にパス。△5はシュートを打つかポストへ落とすかサイドへずらすかは△5の判断で行なう。

ポストは⑤と⑥の間に位置する。

(4)・△1から△2へパス。△4は△2とクロスして、△5は△2とクロスしてシュートを打つ。打てない時は、△2と△4、または△3へ展開して行くようにする。

クロスする位置が真中へ行きすぎないようにする。

(5)・△2と△1からクロスして、③と④の前で△1は△5とクロス、△5は△3と△1とのブロックを利用してシュートを打つ。△4は△2の位置へ、△2は△1の所へ移動して次の展開に備えておく。

以上のように、5つの攻撃パターンがあるが、特に重要なことは、各ポジションの役割をきちんと果たすことで、フローターはポジションチェンジをしながらシュート

0−6DFに対するOF (1)〜(5)のパターン（→人の動き　⇢ボールの動き）

(1)

(2)

(3)

バックステップ

(4)

(5)

を狙い、バックステップを早くしてディフェンスのいやがる位置へ早く位置取るようにする。
サイドは、コーナーぎりぎりに位置し、ディフェンスを広げる役目をしてシュートの時は角度もかせげる位置を取る。
また、大きなシュートフォームでペナルティーをもらうことも忘れてはいけないことである。
フローターの仕事する量が、今までとは違いかなり多くなっているので、フローターの確実なプレーが0—6の攻撃では重要なポイントとなってくるだろう。

ユーゴのハンドボールについて

●内藤　浩樹

今回私たち、全日本チームは、前回のロサンゼルス・オリンピック、そして今年の世界選手権と、現在世界のトップにいるユーゴ・ハンドボールを、1ヶ月間という長期にわたり地元ユーゴスラビアで学べる絶好の機会を得ました。
遠征の前半2週間を、イワン・スノイ氏、アルスナジッチ氏の熱心な指導のもと、今回の遠征目的でもある、6人のオフェンス、ディフェンス(0—6、1—2—3)の理論を段階を追ってトレーニングを繰り返し、そして後半の2週間は国内を転戦(7試合)し、最終的にはかなりの成果を上げることができました。
以下、今回のトレーニング及び試合を通して感じたユーゴハンドボールについて述べることにします。
現在ユーゴのハンドボールは、国内ではサッカーに次いでバスケットボールと並ぶ人気スポーツです。登録しているチーム数は、男女合わせて1700チームにものぼります。
'72年のミュンヘン・オリンピックで、ユーゴが金メダルを獲得したのを切っかけに、より一層国内に普及させ、ハンドボール技術の底辺拡大のために1500面もの屋外コートを作った。コート自体も日本で見るそれとは違い、アスファルトがほとんどです。当時はハンドボール競技ができる体育館など全くなく、14年経った今、480の体育館で競技が可能です。これだけを見てもユーゴハンドボールの勢いが伺えることでしょう。
また、現在国内リーグは8部まであるが上位部(ほとんどが一部と二部)を除いて試合はすべて屋外で行なっています。
次に今回のトレーニングでポイントとなったことは、まずディフェンスでは〝多くのファウルを取る〟ことである。これにより確実に相手の連続攻撃を断つことができます。
日本は不利な体格、パワーの差を素早い前後左右のフットワークを用いて、ありがちな防ぎのディフェンスにならず、積極的に攻撃のディフェンスをしなければいけません。
また、実際ディフェンスをしていて、これまでの日本国内で通用していたディフェンスの仕方で、警告、退場につながるケースが多々見られました。逆に相手の利き腕、もしくは、ボール自体をデッドすることが要求され、それに対しては激しいディフェンスをであっても、通常のファウルとして扱われることがほとんどです。(初めは、レフェリングの違いで戸惑った)。
一方オフェンスは、これまでいま一つ全員が共通した攻撃ポイントが明確でなかったのに対し、今回各々のディフェンス体系(0—6、1—2—3)に対して、得点できる幾つかの基本パターンを完成することができました。
これは、両氏により各ポジションの役割、動きなどを新ためて指導して頂いたおかげです。
この基本パターンを日本に持ち帰り、アジア大会に向け全日本に合ったアレンジ(応用)を加え、自分たちのものにすることが大きな課題の一つです。また、両氏から「常に前を狙え」という指摘と同様に「アップ・ガーベ」(パスキャッチ)を正確に行なうことを強く強調された。これらは単純なことのように思えるが、とても大切なことです。フィニッシュにつながる正確なパスが来なければ得点につながらないのだから……。
最後に、トレーニング、試合を通して感じたことは、ユーゴの選手たちは一つ一つのプレーに気迫がこもっているということです。これは、味方が5人になっても積極的にシュートを打ってくることでも言えます。シュート数の少ないハンドボールほど退屈なものはありません。それでいて強いチームは強引さばかりでなく、やはり基本になる個々の役割を皆が行なっています。
今後の私たちの課題は、各々が技術的役割を果たすことは勿論のこと、日本の代表として、いかなる試合も勝つという強い気迫と闘争心を表面に出すことが大事であると思います。
ユーゴと日本の違いは？と質問されると、とても難しいですが、この1ヶ月間で世界のトップ・ユーゴに前より少しでも近づいたことは確かであろうと思います。

各地の記録から…

東北

第23回仙台市民総体兼仙台ブロック高校選手権
（10月16日～18日／仙台市体育館）

〈男子〉

▼1回戦
育英A 26－16 仙台
仙台南 22－14 県工
仙台一 23－9 電子
名取北 21－13 仙台商
向山 31－12 松陵
東北 13－12 館山
塩釜 14－9 仙台三
育英B 37－2 東北学院

▼2回戦
育英A 24－16 仙台南
仙台一 26－10 名取北
向山 33－12 東北
塩釜 13－12 育英B

▼準決勝
育英A 24－12 仙台一
向山 16－15 塩釜

▼3位決定戦
仙台一 24－14 塩釜

▼決勝
育英A 22（12－10、10－9）19 向山

〈女子〉

▼1回戦
名取北 24－3 宮城一女
塩釜女 37－1 松陵
仙台女商 18－4 館山

▼2回戦
聖和A 26－8 名取北
朴沢 15－1 宮城二女
塩釜女 10－9 宮城三女
聖和B 23－8 仙台女商

▼準決勝
聖和A 25－8 朴沢
聖和B 25－14 塩釜女

▼決勝
聖和A 13（4－3、9－5）8 聖和B

〈成年女子の部〉

▼決勝
東北福祉大 23（14－6、9－10）16 けやきク

山形県高校新人戦
（日程、場所不明）

〈男子〉

▼決勝トーナメント1回戦
山形東 14－10 新床工
日大山形 22－11 真室川
寒河江 21－20 大石田
山形工 21－12 東根工

▼準決勝
日大山形 15－9 山形東
山形工 29－10 寒河江

▼準々決勝
山形東 16－15 寒河江

▼決勝
山形工 20（9－6、11－7）13 日大山形

〈女子〉

▼決勝
日大山形 17（5－6、12－5）11 米沢女

関東

茨城県総合選手権
（11月2、3日／自衛隊勝田）

〈男子〉

▼準々決勝
オールド茨城 30－18 藤代紫水高
土浦三中ク 31－21 土浦湖北高
茨城コンドルズ 36－18 江戸川学園高
茨苑ク 19－12 自衛隊勝田

▼準決勝
茨苑ク 25－19 土浦三中ク
オールド茨城 22－19 茨城コンドルズ

▼決勝
茨苑ク 19－13 オールド茨城

〈女子〉

▼準々決勝
水海道二高A 22－10 太田二高
御城ク 22－11 鉾田二高B
水海道二高B 19－10 竜ヶ崎二高
結城二高 16－5 麻生高

▼準決勝
水海道二高A 13－11 御城ク
水海道二高B 15－12 結城二高

▼3位決定戦
御城ク 21－18 結城二高

▼決勝
水海道二高B 13－12 水海道二高A

茨城県中学新人大会
（日程不明／石岡中学）

〈男子〉

▼1回戦
鬼怒 12－10 利根
玉造 22－12 伊奈
美浦 15－7 水海道四
新館 26－7 北浦
水海道 16－9 土浦三
勝田二 16－7 高崎
府中 11－9 美野里

▼2回戦
土浦六 15－7 岩井
鬼怒 17－11 玉造
新館 12－10 美浦
水海道 11－10 勝田二
土浦六 13－6 府中

▼準決勝
鬼怒 18－14 新館
土浦六 15－8 水海道

▼決勝
鬼怒 19（7－8、8－7、2－1、2－2）18 土浦六

〈女子〉

▼1回戦
伊奈東 24－3 結城
水海道西 13－9 守谷
鬼怒 11－6 江戸崎
麻生 15－7 利根
新館 10－4 美野里
北浦 18－12 茎崎
土浦六 17－5 勝田二
岩井南 20－2 伊奈

▼2回戦
伊奈東 17－2 水海道西
鬼怒 11－10 麻生
北浦 17－8 新館
岩井南 9－7 土浦六

▼準決勝
伊奈東 23－2 鬼怒
岩井南 16－12 北浦

▼決勝
伊奈東 11（7－3、4－3）6 岩井南

千葉県民体育大会第二部
（7月13、23、24日／松戸秋山高校、東邦大付属東邦高校）

〈成年男子〉

▼1回戦
小金ク 30－24 コスモ石油

▼準決勝
千葉教員 46－10 小金ク
若潮ナッツ 31－20 海自下総

▼決勝
千葉教員 40（21－12、19－10）22 若潮ナッツ

〈成年女子〉

▼リーグ戦
千葉ク 21－10 昭和ク
千葉ク 25－20 和洋ク
昭和ク 22－13 和洋ク

［順位］①千葉ク ②昭和ク ③和洋ク

〈少年男子〉

▼1回戦
柏南 32－5 鶴舞商
東京学館浦安 31－10 木更津
東京学館 30－13 小金

▼2回戦
千葉選抜 28－6 柏南
二松学舎沼南 22－4 市立松戸
東葛飾 18－15 我孫子
東京学館浦安 24－12 東邦
八千代 18－16 佐原
若松 26－15 流山中央
市原 21－14 県立柏
東京学館 23－17 市川

▼3回戦
千葉選抜 18－14 二松学舎沼南
東京学館浦安 28－8 東葛飾
若松 20－13 八千代
東京学館 25－21 市原

▼準決勝
千葉選抜 25－21 東京学館浦安
若松 25－14 東京学館

▼決勝
千葉選抜 31（16－8、15－7）15 若松

〈少年女子〉

▼1回戦

佐原女 12－10 流山中央
東邦 14－5 聖徳短大付
佐原 21－4 東葛飾

▼2回戦
千葉選抜 15－3 佐原女
柏南 8－7 昭和学院B
和洋 8－7 東邦
昭和学院A 21－1 佐原

▼準決勝
千葉選抜 25－4 柏南
昭和学院A 19－6 和洋

▼決勝
千葉選抜 17（10－5、7－4）9 昭和学院A

第4回千葉高校ジュニア大会

（日時、場所不明）

〈男子〉

▼予選リーグ

○A組
市川 35－0 芝浦工大柏
市川 19－7 柏陵
柏陵 22－4 芝浦工大柏

○B組
船橋旭 21－3 房総学園
船橋旭 12－0 生浜
房総学園 12－0 生浜

○C組
市原 10－9 松戸六実
市原 15－15 沼南
松戸六実 16－8 沼南

○D組
佐原 15－6 拓大紅陵
佐原 23－8 滋谷幕張
拓大紅陵 29－3 滋谷幕張

○E組
東京学館浦安 29－9 船橋東
東京学館浦安 35－2 鶴舞商
船橋東 20－9 鶴舞商

○F組
二松学舎沼南 26－10 木更津
二松学舎沼南 30－5 千葉大宮
木更津 24－13 千葉大宮

○G組
柏南 17－13 流山中央
柏南 19－11 士気
流山中央 19－8 士気

○H組
東京学館 17－6 我孫子
東京学館 20－12 市松戸
我孫子 17－9 市松戸

○I組
八千代 27－11 東葛飾
八千代 31－7 泉
東葛飾 27－6 泉

○J組
東邦 29－10 県柏
東邦 43－3 京葉
県柏 20－9 京葉

○K組
千葉南 28－10 小金
千葉南 18－7 浦安南
小金 16－9 浦安南

▼決勝トーナメント1回戦
船橋旭 24－4 市原
千葉南 19－13 柏南
八千代 14－11 東京学館

▼2回戦
市川 22－5 船橋旭
東京学館浦安 25－6 佐原
二松学舎沼南 22－6 千葉南
東邦 19－4 八千代

▼準決勝
市川 18－10 東京学館浦安
東邦 19－7 二松学舎沼南

▼3位決定戦
東京学館浦安 17－12 二松学舎沼南

▼決勝
東邦 14（7－3、7－5）8 市川

〈女子〉

▼予選リーグ

○a組
昭和 38－7 幕張北
昭和 12－0 大宮
昭和 12－0 明徳
幕張北 12－0 大宮

○b組
若葉看護 7－4 東邦
若葉看護 12－4 聖徳短大付
若葉看護 19－8 東葛飾
東邦 12－4 聖徳短大付
東邦 20－5 東葛飾
聖徳短大付 16－7 東葛飾

○c組
柏南 12－7 佐原
柏南 15－10 泉
柏南 25－5 松戸六実
佐原 24－7 泉
佐原 29－1 松戸六実
泉 18－3 松戸六実

○d組
佐原女 16－14 流山中央
佐原女 18－5 御宿家政
佐原女 18－4 渋谷幕張
流山中央 20－11 御宿家政
流山中央 23－5 滋谷幕張
御宿家政 8－2 滋谷幕張

▼決勝トーナメント1回戦
昭和 27－10 流山中央
柏南 13－3 東邦
佐原女 15－8 幕張北
佐原 17－7 若葉看護

▼準決勝
昭和 19－2 柏南
佐原 13－8 佐原女

▼3位決定戦
柏南 40－8 佐原女

▼決勝
昭和 13（8－4、5－0）4 佐原

千葉県実業団秋季リーグ戦

（11月15、16、23日／出光興産体育館）

▼1部
出光千葉 32－21 日産石化
海自下総 32－30 三井石化
コスモ石油 棄権 海自木補所
出光興産 29－22 三井石化
コスモ石油 40－26 日産石化
海自下総 36－19 日産石化
コスモ石油 28－17 三井石化
三井石化 27－22 海自木補所
出光千葉 30－29 コスモ石油
出光千葉 25－19 海自木補所
日産石化 24－19 三井石化
出光千葉 18－15 海自下総
日産石化 26－21 海自木補所
コスト石油 29－18 海自下総

［順位］①出光千葉②コスモ石油③海自下総④日産石化⑤三井石化⑥海自木補所

▼2部
海自館山 23－15 東京ガス
海自館山 棄権 東京電力
東京ガス 棄権 東京電力

［順位］①海自館山②東京ガス③東京電力

▼1・2部入替戦
海自木補所 30－20 海自館山

※海自木補所は1部残留。

第24回群馬県民体育大会

（11月2日／前橋高）

〈男子〉

▼1回戦
甘楽郡 26－25 桐生市
富岡市 31－23 高崎市

▼準決勝
甘楽郡 29－14 藤岡市
前橋市 28－25 富岡市

▼決勝
前橋市 31（11－11、13－13、3－2、4－3）29 甘楽郡

〈女子〉

▼1回戦
前橋市 20－10 富岡市
高崎市 26－9 桐生市

▼決勝
高崎市 23（10－5、13－6）11 前橋市

群馬県中学新人大会

（11月9、16日／富岡中、富岡東中）

〈男子〉

▼1回戦
藤岡南 21－16 桐生相生
富岡南 36－9 藤岡北
下仁田東 15－7 下仁田西
高崎矢中 30－8 松井田東
高崎南八幡 23－6 富岡西
富岡 22－10 甘楽二

▼2回戦
富岡東 25－16 藤岡南
下仁田東 8－7 富岡南
高崎南八幡 20－11 高崎矢中
甘楽三 16－13 富岡

▼準決勝
富岡東 20－5 下仁田東
甘楽三 11－7 高崎南八幡

▼決勝
甘楽三 14（7－7、7－6）13 富岡東

〈女子〉

▼1回戦
高崎高南 19－5 高崎塚沢

▼2回戦
高崎南八幡 15－6 高崎高南
富岡南 15－4 富岡東
高崎矢中 13－6 桐生相生

▼富岡 24―2 太田休泊

▼準決勝
高崎南八幡 19―4 富岡南
富岡 11―5 高崎矢中

▼決勝
高崎南八幡 16（8―4、8―5）9 富岡

東海

第37回三重県総合選手権
（9月7、14、21日／津東高）

〈男子〉

▼1回戦
津西高 14―13 桑名高B
四日市南高 27―14 半田ク
津東高A 20―4 四日市西高B
ジャスコ 25―12 四日市高A
亀山高A 26―9 桑名北高A
鈴鹿高専B 棄権 尾鷲高B
尾鷲ク 30―17 亀山高B
四日市高B 36―16 四日市南高OB
四日市工高A 33―9 高田高
四日市西高C 22―17 桑名北高B
三重教員B 44―16 津工高A
鵜ノ森ク 27―10 鈴鹿高専A
尾鷲高A 24―16 海星高B
三重大 24―8 四日市西高A
九華ク 35―10 サクセスク
桑名高A 28―6 津東高B
四日市高八陸星 27―10 四日市四郷高

▼2回戦
本田技研 49―2 津西高
四日市南高 33―19 四日市中央ク
津東高A 33―11 四日市中央工高
ジャスコ 33―15 海星高A
亀山高A 18―10 桑名工高A
鈴鹿高専B 20―12 日生第一高
尾鷲ク 33―9 桑名工高B
本田技研爽風会 38―12 四日市高B
四日市工高A 25―21 三重教員A
四日市西高C 27―10 津高
三重教員B 24―19 鵜ノ森ク
むつみヶ丘ク 29―11 尾鷲高A
四日市工高B 30―20 三重大
九華ク 36―16 桑名西高
桑名高A 14―8 津工高B
本田ク 49―12 四日市高八陸星

▼3回戦
本田技研 52―7 四日市南高
ジャスコ 20―15 津東高A
亀山高A 26―16 鈴鹿高専B
本田技研爽風会 49―13 尾鷲ク
四日市工高A 27―10 四日市西高C
三重教員B 32―23 むつみヶ丘ク
四日市工高B 棄権 九華ク
本田ク 40―14 桑名高A

▼準々決勝
本田技研 51―6 ジャスコ
本田技研爽風会 38―8 亀山高A
四日市工高A 23―22 三重教員B
本田ク 32―19 四日市工高B

▼準決勝
本田技研 27―15 本田技研爽風会
本田ク 25―23 四日市工高A

▼決勝
本田技研 27（12―7、15―8）15 本田ク

〈女子〉

▼1回戦
四日市西高A 10―9 四日市四郷高
泗商OGB 30―3 津高
尾鷲高B 24―8 桑名北高
四日市南高 18―13 暁高OG
尾鷲ク 34―11 亀山高B
上野高OG 20―17 泗商B
津東高 棄権 上野商高
尾鷲高A 18―9 桑名高
亀山高A 20―13 むつみヶ丘ク
三重大 23―8 上野高
四日市南高OG 16―13 四日市高

▼2回戦
暁高 34―4 四日市西高
泗商OGB 棄権 尾鷲高B
四日市南高 棄権 津西高
尾鷲ク 17―11 泗商OGA
上野高OG 14―9 四日市西高B
津東高 17―7 尾鷲高A
亀山高A 10―9 三重大
泗商A 18―14 四日市南高OG

▼準々決勝
暁高 31―6 泗商OGB
四日市南高 棄権 尾鷲ク
上野高OG 17―11 津東高
泗商A 14―8 亀山高A

▼準決勝
暁高 30―7 四日市南高
上野高OG 16―14 泗商A

▼決勝
暁高 34（18―1、16―4）5 上野高OG

北越

長野県高校新人大会
（11月1、2日／戸倉町総合体育館）

〈男子〉

▼1回戦
上田千曲 21―19 長野東
野沢北 24―12 坂城
小諸 29―14 松本美須々ヶ丘
野沢南 14―9 臼田
北佐久農 不戦勝 上水内北部

▼2回戦
上田 34―2 上田千曲
小諸 22―20 野沢北
野沢南 20―15 屋代
北佐久農 29―18 田川

▼準決勝
上田 26―7 小諸
野沢南 27―21 北佐久農

▼決勝
上田 17（8―8、9―2）10 野沢南

※上田は2年連続6回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
松本蟻ヶ崎 34―2 小海
小諸商 13―9 松本美須々ヶ丘

▼2回戦
佐久 35―10 松本蟻ヶ崎
田川 30―2 北佐久農
塩尻 34―4 臼田
屋代 22―9 小諸商

▼準決勝
佐久 21―8 田川
屋代 17―15 塩尻

▼決勝
屋代 17（7―8、10―8）16 佐久

※屋代は初優勝。

福井県高校新人戦
（11月16、17日）

〈男子〉

▼1回戦
藤島 31―9 科技
高志 21―6 福井商

▼2回戦
金津 23―14 藤島
北陸 23―11 武生
丹南 16―14 羽水
高志 27―5 勝山

▼準決勝
北陸 19―8 金津
高志 26―4 丹南

▼決勝
北陸 20（11―4、9―5）9 高志

※北陸は2年連続9回目の優勝。

〈女子〉

▼1回戦
羽水 23－0 福井女
武生商 21－7 藤島
福井商 15－7 仁愛
高志 41－7 勝山

▼準決勝
羽水 14－7 武生商
福井商 23－5 高志

▼決勝
福井商 25（12－4、13－2）6 羽水

※福井商は3年連続6回目の優勝。

近畿

第16回近畿クラブ対抗
（11月2日／彦根東、彦根工高）

〈男子〉

▼リーグ戦
生駒ク 10－7 高島ク
雪陵ク 19－6 神戸ク
東山ク 10－8 生駒ク
神戸ク 13－10 高島ク
東山ク 15－14 雪陵ク
生駒ク 15－6 神戸ク
雪陵ク 13－11 高島ク
東山ク 25－4 神戸ク
雪陵ク 12－10 生駒ク
東山ク 9－8 高島ク

［順位］①東山ク②雪陵ク③生駒ク④神戸ク⑤高島ク

〈女子〉

▼リーグ戦
滋賀ク 25－16 スカイバンビ
古都ク 28－3 スカイバンビ
古都ク 27－10 滋賀ク

［順位］①古都ク②滋賀ク③スカイバンビ

和歌山県秋季選手権
（11月2、3日／那賀高校）

〈一般男子〉

▼1回戦
応神ク 21－11 貴志川高
金清ク 16－14 市和商高
箕島ク 23－20 近大附高A
県和商高 26－19 桐蔭高
笠田高A 22－17 那賀ク
御坊商工高B 35－23 和歌山ク
耐久高 20－16 県和商クB
粉河高 26－18 箕島高
海南高 18－13 近大附高B

▼2回戦
県和商クA 27－8 応神ク
金清ク 19－17 箕島ク
御坊商工高A 34－9 県和商高
住友金属 26－20 笠田高A
那賀高 24－23 御坊商工高B
笠田高B 26－19 耐久高
県和商高3年 28－27 粉河高
御坊ク 37－12 海南高

▼3回戦
県和商クA 24－23 金清ク
住友金属 17－15 御坊商工高A
那賀高 27－17 笠田高B
御坊ク 18－12 県和商高3年

▼準決勝
住友金属 23－21 県和商クA
御坊ク 28－21 那賀高

▼決勝
御坊ク 24（12－3、12－10）13 住友金属

〈一般女子〉

▼1回戦
御坊商工高 17－9 県和商ク
県和商高 11－5 貴志川高
県和商高3年 13－2 笠田高
粉河高 25－9 那賀高

▼準決勝
御坊商工高 17－9 県和商ク
粉河高 18－13 県和商高3年

▼決勝
粉河高 21（10－11、11－6）17 御坊商工高

〈中学男子〉

▼Aゾーン1回戦
湯浅 23－21 那賀
岩出B 22－11 白馬

▼勝者戦
岩出B 16－13 湯浅

▼敗者1回戦
那賀 23－13 白馬

▼Bゾーン1回戦
岩出A 33－6 金屋
貴志川 24－4 打田

▼勝者戦
岩出A 17－8 貴志川

▼敗者1回戦
金屋 19－9 打田

▼敗者最終戦
貴志川 18－5 金屋

▼準決勝
貴志川 12－11 岩出B
岩出A 27－7 湯浅

中国

第41回岡山県高校新人大会
（11月1、2、8日／津山商、倉敷天城高）

〈男子〉

▼1回戦
吉備 28－7 高梁工
津山工 23－4 和気閑谷
玉野 18－9 児島第一
児島 24－14 天城
備前東 18－12 倉敷南
芳泉 15－9 青陵
東岡山工 27－8 関西
総社 16－5 倉敷商
朝日 20－16 金川
水島工 27－13 落合
岡山工 17－15 古城池
津山 10－9 操山
一宮 12－11 邑久
大安寺 17－14 西大寺

▼2回戦
倉敷工 21－8 吉備
玉野 16－10 津山工
児島 9－8 備前東
東岡山工 27－16 芳泉
総社 12－10 朝日
水島工 10－9 岡山工
津山 17－6 一宮
玉野光南 26－10 大安寺

▼3回戦
倉敷工 28－9 玉野
東岡山工 20－15 児島
水島工 21－14 総社
玉野光南 27－13 津山

▼準決勝
東岡山工 19－15 倉敷工
玉野光南 27－17 水島工

▼決勝
東岡山工 23（10－8、13－10）18 玉野光南

※東岡山工は初優勝。

〈女子〉

▼1回戦
落合 13－12 天城
倉敷南 20－4 青陵
備前東 12－11 古城池
倉敷中央 9－8 芳泉
操山 18－6 児島第一
大安寺 14－4 金川
真備 21－6 朝日

▼2回戦
西大寺 17－2 落合
津山 12－6 一宮
玉野 10－7 倉敷南
児島 18－8 備前東
玉野光南 29－6 倉敷中央
倉敷商 10－6 操山
大安寺 7－6 津山
総社 14－5 真備

▼3回戦
西大寺 29－2 津山
児島 12－9 玉野
玉野光南 27－5 倉敷商
総社 17－7 大安寺

▼準決勝
西大寺 25－10 児島
総社 12－11 玉野光南

▼決勝
総社 17（10－5、7－9）14 西大寺

※総社は4年ぶり3回目の優勝。

九州

鹿児島県高校新人大会
（11月15、16日）

〈男子〉

▼予選リーグ

○Aパート
加治木工 19－14 甲南
大島 21－14 甲南
大島 20－15 加治木工

○Bパート
鹿児島南 17－4 指宿
出水 27－11 指宿
鹿児島南 15－5 出水

○Cパート
笠沙 21－14 鹿児島商
隼人工 24－18 笠沙
隼人工 29－15 笠沙

○Dパート
鹿児島中央 22－5 志布志
志布志 棄権 出水工
鹿児島中央 棄権 出水工

○Eパート

加治木	21－11	甲陵
薩南工	13－10	甲陵
加治木	20－10	薩南工

○Fパート

国分	18－13	財部
鹿児島工	31－4	川内商工
鹿児島工	24－5	国分
財部	18－11	川内商工

▼決勝トーナメント1回戦

国分	14－13	鹿児島南
鹿児島中央	27－22	隼人工
鹿児島工	28－10	加治木

▼同準決勝

大島	30－18	国分
鹿児島工	25－13	鹿児島中央

▼決勝

鹿児島工 24（12－7、12－7）14 大島

〈女子〉

▼予選リーグ

○Aパート

串良商	24－3	甲南
牧園	26－12	串良商
牧園	45－3	甲南

○Bパート

大島	10－7	志布志
鹿児島純心	31－4	志布志
鹿児島純心	25－9	大島

○Cパート

鹿児島中央	10－8	奄美
国分実	23－5	奄美
国分実	15－5	鹿児島中央

○Dパート

串木野女	18－5	出水
鹿児島南	23－3	出水
鹿児島南	20－7	串木野女

▼決勝トーナメント1回戦

牧園	31－8	串木野女
鹿児島純心	26－9	鹿児島中央
国分実	26－4	大島
鹿児島南	24－4	串良商

▼準決勝

牧園	20－15	鹿児島純心
鹿児島南	12－11	国分実

▼決勝

牧園 15（6－7、8－7、1－0、0－0）14 鹿児島南

みなさんのアイデアで親しまれるハンドボールに

——日本ハンドボール協会の〈協会章〉と〈マスコットマーク〉を募集します

締切は62年1月末日です。——

財団法人日本ハンドボール協会は、昭和62年2月に創立50周年目を迎えます。今、この50周年に向けて「日本ハンドボール史」の作成など、これまでの日本ハンドボール界の歩みをまとめる作業を進めております。

また、それと共に、今後より一層みなさんに愛され、親しまれるハンドボール競技を目指し、日本ハンドボール協会の〈協会章〉（これは協会の公式のマークとなるもの）と〈マスコットマーク〉（これはいわゆる愛称的なマークでより一層親しみやすさをイメージしたもの）を募集することになりました。

全国のハンドボール愛好者の方々のアイデアから素晴らしいマークがデザインされることを期待しております。

応募要領は以下の通りです。

○応募資格　どなたでも結構です。必ず応募作品に住所、氏名、年齢、所属（会社、学校名など）を明記して下さい。作品は何点応募して下さっても結構です。

○締切　昭和62年1月末日必着

○宛先　〒150東京都渋谷区神南一―一―一
岸記念体育館内
日本ハンドボール協会
「マーク」募集係

○謝礼　日本ハンドボール協会理事会にて審査させていただき、採用の際には、各10万円を謝礼として支払わさせていただきます。

尚、その際は、マークの使用権は日本ハンドボール協会に属するものとさせていただきます。

高度なスカイプレーが変幻自在。
スカイハンド®スペシャル（THH705）
●カラー　ホワイト×レッド・レッド×ホワイト・ロイヤルブルー×ホワイト
●サイズ　22.5～28.0cm
●アッパー　ステア表革（ホワイト×レッド）
牛革ベロア（レッド×ホワイト、ロイヤルブルー×ホワイト）
標準小売価格 ¥13,000
asics TIGER
襲う。
ストップ＆ジャンプ性能を徹底追求したシューズ〈スカイハンド®スペシャル〉。つま先からかかとまで衝撃吸収性に富む超軽量スポンジE・V・A・を内蔵したカップソールが、素晴しい軽さ、ソフトな着地感、ストップ性を獲得しました。アクロバチックなスカイプレイを繰り広げながら、ヒッチコックの「鳥」のような圧倒的迫力でゴールを襲うハンドボーラーに捧げます。

株式会社アシックス

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二五八号
昭和四十年六月七[日]
第三種郵便物認可
昭和六十一年十一月二十五日 印刷
昭和六十一年十二月一日 発行
東京都渋谷区[illegible]一―一―一
電話 代表(〇三)[illegible]三六一
振替 東京 六―五八三四八番
編集兼発行人 大野金一
定価三百五十円
(年間購読料三千三百円)